

2021年2月22日

各位

株式会社リボミック
(コード番号：4591 東証マザーズ)

RIBOMIC USA Inc. 新 CEO 選任のお知らせ

この度、当社の米国子会社である RIBOMIC USA Inc. の新 CEO として、パドマ・ベズワダ氏を選任いたしましたので、お知らせいたします。

現 CEO であるユスフ・アリは退任いたしますが、今後はエグゼクティブアドバイザーの立場で、同社が実施中の臨床試験をサポートいたします。本変更は 2021 年 3 月 1 日を予定しております。

パドマ・ベズワダ氏は、製薬企業やバイオテクノロジー企業における 20 年以上の研究開発および事業開発の経験を有しております。眼科を含む複数の疾患領域において、前臨床、CMC、臨床、薬事など、医薬品開発上の広い分野に携わり、専門知識と経験の裏付けによって、多くの事業提携を成功裏に導いています。

ベズワダ氏は、今後、現在実施中の滲出型加齢黄斑変性治療薬 (RBM-007) の第 2 相臨床試験を完了し、その事業提携を実現するとともに、当社の国際的な事業開発、ポジショニング戦略の策定において主導的な役割を担います。

リボミック代表取締役社長中村義一は次のように述べています。「パドマは、臨床試験および事業提携における実績を有しており、当社を clinical stage company にした現 CEO ユスフの貢献を継いで当子会社を牽引し、リボミックの次世代の成長を切り拓くにふさわしい人物です。パドマと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。」

本選任に関して、ベズワダ氏は次のように述べています。「リボミックの有能なチームに参加できることを非常に喜ばしく、光栄に思っています。リボミックは多様で差別化された製品ポートフォリオを構築しており、とりわけ臨床段階にある RBM-007 は、独自のメカニズムにより、滲出型加齢黄斑変性における切実なアンメットニーズに応える可能性を秘めています。チームとともに、パイプラインを進展させ、さらなる価値を創出することに全力を尽くしていきます。」

パドマ・ベズワダ博士 (Padma Bezwada, Ph.D.) について

ベズワダ博士は、バイオテクノロジー企業および製薬企業において 20 年以上研究開発に携わり、低分子医薬品および生物学的製剤の両方について、前臨床、IND 申請、臨床開発から



承認までを経験し、規制当局、製薬業界パートナー、治験協力者、投資家を含むステークホルダーとコミュニケーションを図ってきました。直近では、XOMA 社の開発副社長として、腫瘍、内分泌疾患、血液疾患、自己免疫疾患での抗体医薬品の技術評価、事業提携の責任を担っており、提携先には Novartis 社、Novo Nordisk 社、Zydus Cadila 社が含まれています。

XOMA 社では、ベーチェットぶどう膜炎、高プロラクチン血症、先天性高インスリン血症などの希少疾病の抗体医薬品の開発にも携わりました。XOMA 社以前には、Santen Inc の上級ディレクターおよびヘッドとして、眼科医薬品の開発を主導しました。

業界でのキャリアは、Chiron 社 (Novartis 社が買収) の薬物動態の科学者としてスタートしています。

彼女はマドラス大学 (インド) にて生化学博士号を取得後、米国シカゴにあるラッシュ大学メディカルセンターの血液遺伝学科で博士研究員として研究を行いました。

以 上

【本件に関するお問い合わせ先：経営企画部03-3440-3745】

本リリースに記載されている医療用医薬品 (開発品を含む) の情報は、当該製品を宣伝・広告するものではなく、投資家への情報開示を目的とするものであり、その製品化を保証するものではありません。